



八中だより



令和6年12月2日 12月号
調布市立第八中学校
校長 馬場 誠

HP : <http://www.chofu-schools.jp/chofu8/>

共助の実現は学校の絆づくりを基盤に

校長 馬場 誠

コロナが人と人の結びつきを分断していったのは記憶に新しいと思います。活気のあるおしゃべりはマナー違反と言われ、お店に集まって楽しく買い物をすることもできず、顔にかけたマスクは心のかよった素顔の付き合いを阻みました。そんな時代を超え、私たちは再び人と人との結びつきを構築することに意識を向ける段階になりました。

学校は絆を生む場所です。子どもの成長のため、意図的・計画的に仲間作りを促し、互いの違いを尊重しながらも協働して多様な課題に取り組める人物を育てることが、学校の大切な使命だと思っています。コロナ禍が過ぎ、学校におけるこのような絆作りはますます重要になっているのではないでしょうか。本校では日常的にグループ学習を推進したり、さまざまな行事で仲間と協力しあう機会を設けたりしています。教室に入りづらい生徒にも教職員が声をかけ、その生徒なりのやり方で参加できるようにしています。

絆作りで得たものは、生徒一人ひとりが将来に生かすことができるはずですし、万が一、大きな災害が起こっても強い結束力をもって困難に打ち勝つ基礎になるものと考えています。自助・共助・公助は防災の三助と呼ばれ、社会が危機に陥ったときにとる重要な行動といわれますが、この中の「共助」を実現するのは日頃からの仲間作り、絆作りがあればこそではないでしょうか。

さらに、目を学校の周囲に転じれば、少子高齢化により地域はお年寄りが多く暮らしていっしょに、そんな中、中学生は単に守られる存在としてだけではなく、地域を守る存在として期待されています。そのため、地域の方々と力を合わせることは当たり前なんだと、生徒には普段から感じてほしいと思っています。地域ボランティアを推奨するのもその一つですし、今回の仮設トイレ作り（裏面参照）も地域との共助を生むきっかけ作りだと思っています。

調布市の自治会加入率は34.1%（令2.12）という統計が出ています。50年位前の80%以上と比べると半分以下になっているそうです。学校が地域を結び付ける役割を果たせるのではないかと、そのために生徒たちには自治的な力を学び共助の精神を継いでほしい、そんな願いをもちています。

<調布市教育委員会よりお知らせ「令和6年度調布市教育委員会表彰について」>

調布市教育委員会では、学習やスポーツ、文化活動などで他の模範となる優秀な活動を行った児童・生徒の皆さんや学校教育等に貢献いただいた方々の功績をたたえ、表彰を行っています。主な表彰基準は、①教育上特に推賞に価する善行 ②有益な調査研究 ③体育、芸能等の文化活動における特に優秀な功績（全国大会、関東大会等へ都（関東）代表としての出場、全国大会又は関東大会等に予選を経ず出場した場合において3位相当以上で入賞、都大会等での3位以内：大会は公的機関等が主催したもの）です。詳しい表彰基準や前年度までの表彰については、調布市のホームページにてご確認ください。該当する児童・生徒がいましたら12月13日（金）までに学校へご連絡ください。（クラブチームの表彰については、各クラブ担当者にお問い合わせください。）表彰対象は、令和6年4月以降です。なお、学校から調布市教育委員会へ推薦後、調布市教育委員会では審査を行い、表彰の可否について最終決定されますので、あらかじめご了承ください。